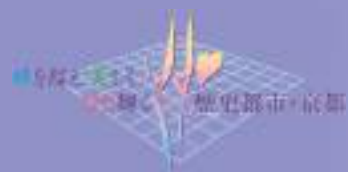


平成16年京都市 観光消費経済波及効果

～観光消費の実態と京都市経済への貢献～



平成17年6月
京 都 市



1

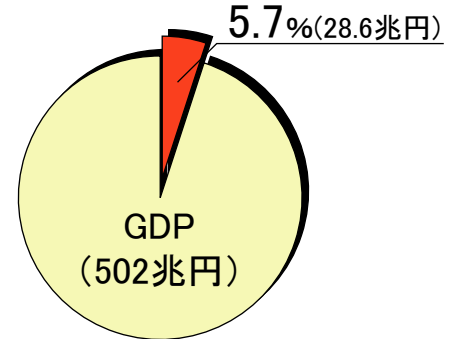
調査の背景 ～京都市経済に観光が与える影響の大きさを把握する～

国土交通省の調査によれば、2003年度の我が国の旅行・観光市場は23.8兆円に上っており、こうした消費は、宿泊業や運輸業、土産販売業などを通して多様な産業に波及し、日本経済の5.7%を占めるに至っています。

京都市では昭和23年から観光客数調査を行い、昭和33年からは観光客が直接的に消費する観光消費額についても毎年把握してきましたが、新たな観光振興推進計画の策定を契機として、観光消費が与える経済波及効果について調査を実施しました。

京都経済全般に観光がどのような役割を果たしているのか、雇用への効果など、その影響、位置付けなどを調査、分析し、「5000万人観光都市・京都」の実現に向けて、より効果的な観光政策を立案、実施します。

■観光産業の日本経済への貢献度
(国内総生産に占める割合)



2

京都市の観光客と消費額

▶ 平成16年の観光客は4,554万人

平成16年（2004年）に京都市を訪れた観光客は、約4,554万人であり、前年に比べて約180万人（4.1%）増加しています。京都市に訪れる観光客は平成12年（2000年）以降は増加を続けています。

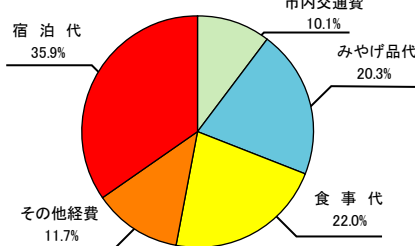
▶ 観光消費額は5,348億円

平成16年の観光客の消費金額は、宿泊の場合で約3,275億円、日帰りの場合で約2,073億円、総合では約5,348億円と推計されます。

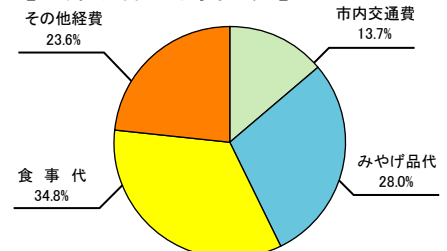
一人当たりの消費金額は、宿泊客で27,691円、日帰り客で6,149円となっています。また、消費金額の内訳では、食事代、みやげ品代ともに、それぞれ宿泊客で約20%、日帰り客で約30%の消費をしています。

■京都市観光客の消費額の内訳

【宿泊客の消費内訳】



【日帰り客の消費内訳】



(京都市観光調査年報より)

3

観光消費による経済波及効果の推計

観光消費が京都市域にもたらす経済波及効果について、観光客数及び消費単価の調査に加えて、市内の事業者アンケート調査及び事業所ヒアリングによって得られた「地域事業者の流通と雇用状況に関する情報」を基に、推計を行いました。

この結果、観光消費額のうち、域内にとどまる額（直接効果の額）は、373,724百万円、直接的な観光関連産業における雇用者総数は50,615人、生じた付加価値は169,509百万円と推計されます。

また、この直接的な効果を基にして、域内にもたらされる生産波及効果の総額は475,522百万円、雇用効果は、30,299人、生じた付加価値額は264,092百万円と推計されます。

以上から、観光客の消費によって京都市域にもたらされた経済波及効果の総額は1,010,328百万円となり、その乗数効果は1.89となります。これにより生じた雇用者数は80,915人と推計されます。

また、観光関連産業による経済波及効果の付加価値の総額（433,601百万円）を市内総生産と比較すると約7.5%、経済波及効果の雇用効果を市内従業者総数と比較すると11.6%となります。推計手法が異なるため、単純な比較はできませんが、国レベルでは観光関連産業は総生産に対して約5.7%、雇用効果においては約6.8%であり、京都市では国レベルより観光関連産業の占める割合が大きいことが分かります。

■観光客の消費活動が京都市の経済に活力を与えます



平成16年における
観光消費が京都市に及ぼす経済波及効果

1兆103億円

直接消費額 5,348億円

●うち付加価値額
1,695億円

●雇用創出効果
5.1万人

付加価値の総額 4,336億円

(京都市の市内総生産の7.5%に相当)

雇用者総数 8.1万人

(市内の従業者総数の11.6%に相当)

※付加価値とは、売上げから原材料費を除いたものであり、
総生産の数値と対応するものです。

京都市は他都市と比べて
「観光」の占める割合が
大きい

■平成14年度市内総生産（京都市）
(単位：百万円)

■各地の観光消費経済波及効果調査結果

農林水産業	10,394
製造業	961,428
建設業	256,151
卸売・小売業	1,014,003
金融保険業	491,988
不動産業	967,438
サービス業	1,236,174
公務その他	858,596
計	5,796,172

区分	発表年	①観光消費額 (億円)	②経済波及効果 (億円)	③係数(②÷①)	④付加価値額 (億円)	⑤域内総生産 (億円)	④÷⑤(%)
全国	2004	238,000	539,000	2.26	286,000	5,015,000	5.7
京都市	2005	5,348	10,103	1.89	4,336	57,962	7.5
札幌市	2000	4,286	6,124	1.43	—	70,228	—
大阪市	2003	11,199	16,164	1.44	—	216,625	—
神戸市	2003	3,341	5,015	1.50	2,880	58,780	4.9
北九州市	2004	712	982	1.38	—	33,864	—

■観光消費がもたらす効果

□直接的な効果

京都市にとどまる直接効果 3,737億円※
観光関連産業で生じた付加価値 1,695億円
観光関連産業での雇用者数 5.1万人

□波及効果

直接効果による波及効果 4,755億円
直接効果による付加価値 2,641億円
波及効果による雇用者数 3.0万人

※観光消費のうち、地域内の原材料調達や人件費に回されたもの

観光客の消費による経済波及効果は、「観光客数 × 消費単価 × 域内調達率」によって決定されます。波及効果を拡大させていくためには、京都市の特性を踏まえ、これら3つをどのようなバランスで伸ばしていくのが重要になります。

▶ 観光客数と消費単価

京都市における平成16年（2004年）の観光客数は4,554万人で、近年は4年連続で過去最高を更新するなど増加傾向にあり、2010年の5000万人観光都市の実現も視野に入ってきています。

一方、消費単価については、日帰り客が6,149円、宿泊客が27,691円となっています。他の地域と比較すると、京都市は神戸市に近い額ですが、京都市よりも高額な都市も少なくありません。観光消費額は調査方法やリピーターの占める割合などによって大きく変わるため単純な比較はできませんが、消費単価を増大させる余地はあると考えられます。

■京都市と他の地域との消費単価の比較

区 分	日帰り客	宿泊客	発表年
京 都 市	6,149円	27,691円	2005年
札幌市（道外客）	14,273円	39,139円	2000年
大 阪 市	11,000円	59,000円	2003年
神 戸 市	5,219円	29,859円	2005年
北 九 州 市	4,570円	19,020円	2004年

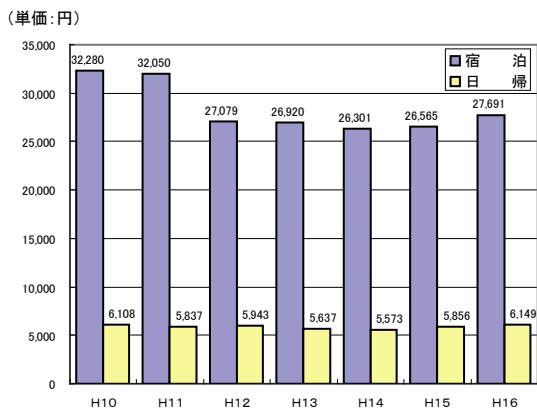
（各自治体資料より作成）

また、観光客数と消費単価の増加は一般的には両立しないことに留意しなければなりません。

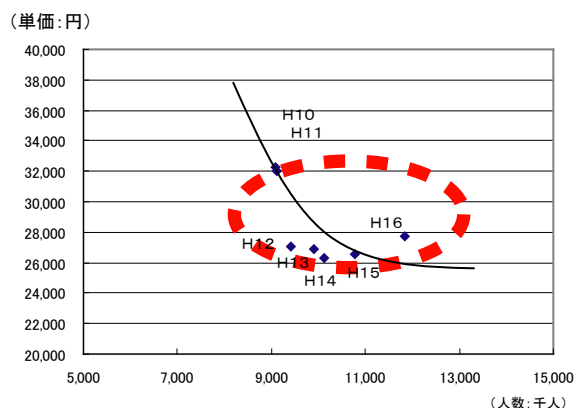
京都市は、観光客数は増加していますが、消費単価はそれほど伸びていません。特に、宿泊客の単価はここ数年横ばいであり、更に高めていくことを検討する必要があります。

観光客数は増加しているが、宿泊客の消費単価はここ数年横ばい状況にある

■宿泊客と日帰り客の一人当たり消費単価の推移



■京都市の宿泊客の消費単価と観光客数の関係



▶ 域内調達率

京都市は、域内調達率が市レベルとしては相対的に高い位置付けとなっていますが、これは、本市が1200年にも及ぶ長い歴史を持った都市であり、自立性が高いためと考えられます。

京都市はものづくり都市であり、「ものづくり」と「観光」を更に結び付けることで、これまで以上に京都市の産業構造と観光との関係が強まり、地域に環流する経済効果が増大（域内調達率の向上）することが考えられます。

今後とも観光を通じた経済波及効果を拡大させていくためには、域内調達率を高めていくことを検討する必要があります。

平成17年6月 平成16年京都市観光消費経済波及効果

京都市印刷物 第173047号

編集・発行：京都市産業観光局観光部観光企画課

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地 TEL. 075-222-4130

調査委託先：財団法人日本交通公社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2 TEL. 03-5208-4700